

歯無〈はな〉しじいさん（相生市）

むかし、近くの村に、話の上手な、おじいさんが住んでいました。このおじいさんは、毎日藁仕事〈わらしごと〉をしていました。ある日、村の子どもたちが、

「おじいさん、きょうも話をしておくれ。」

といました。

「よしよし、してやるから、その前にこの藁打〈わらう〉ちを手伝っておくれ。」

子どもたちは喜んで、藁を打って手伝いました。

やがておじいさんは、

「わしの口を見ろ。」

といて、口を一ぱい大きくあけました。子どもたちがのぞくと、そこには歯が一本もありませんでした。すると、おじいさんはいいました。

「それ、それ、歯なしだ。」